

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ・社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方策		I 学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価			コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	・個別最適な学びの実践 ・学習者用情報端末活用による積極的な授業改善 ・学力分析に基づく学力向上の取組 (学び直しの場の設定、小中連携による授業研究) ・共に学ぶ集団づくり	①標準学力検査や生徒アンケートをもとに授業改善を行う。 ②担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。	①「授業には自分から積極的に取り組むことができます。」に対する肯定的な回答80%以上 ②「クロームブックを使った授業は自分たちにとってわかりやすいと思いますか。」に対する肯定的な回答80%以上。	①肯定的回答91.1% ②肯定的回答96.7%	①肯定的回答82.5% ②肯定的回答93.8%	①100% ②100%	①A ②A	①継続して選択肢と自己決定のある授業改善に取り組んだ。また、校内研修で情報共有を行い、具体的な取り組みについて話し合い対応した。QUでは全国と比べて、学習・学校生活における項目で全学級において優位性が見られた。 ②各教科、各学級の活動の様々な場面でクロームブックを中心にICTを活用した。	①標準学力検査や生徒アンケートの情報共有を行い、教員間で連携を取って生徒への取り組みを行う。3学期に小中合同研修会を行い、小中連携しながら来年度の方向性を確認する。 ②生徒の学習がより効果的になるICTの活用を、教員どうしで使用例を共有しながら進めていく。ICT支援員を活用する。	○			○端末が授業内で有効に使われていると思う。 ○学力向上のための授業研究をさらに深めて下さい。 ○クロームブックを使った授業のさらなる充実を期待します。	
			①フォロータイムの工夫	①学期に1回以上の参加	①学期に複数回の参加 ①学期に複数回の参加	①100% ①A	実施計画を立て、呼びかけを行うことで、効果的に時間を使うことができた。クロームブックを活用し、生徒が自分で学習する姿も見られた。	学習内容の検討を行い、生徒のつまづきに合わせた復習を行う時間になるように工夫していく。教え合い学習も推進する。	○			○計画性・自主性は大切なので、引き続き取り組みをお願いします。 ○個々の生徒のつまづきに視点をのいた取組にして下さい。			
	家庭学習の見直し	・学び方指導の充実 ・「自主学习ノート」の指導と向上 ・家庭学習の習慣化	①生徒一人一人の実態に応じた課題の工夫 ②生徒の自主学習の紹介	①実施した100% ②学期に1回以上の実施	①100% ②100%	①100% ②100%	①100% ②100%	①A ②A	①主体的に生徒が学習に取り組めるように各授業で選択肢と自己決定のある授業を行った。授業をもとに自主学习ノートで復習に取り組む生徒も多かった。 ②参観日・学校行事や各学級において自主学習の紹介・交流を行うことができ、その後の自主学習につなげる生徒の姿が見られた。	①授業中の学び方の指導に加えて、課題の選択肢も各教科で増やす。 ②自主学習については生徒会執行部や委員会の取り組みと関連付けて取り組みを進める。	○			○生徒会活動と結びつけた取り組みに期待します。	
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子どもの育成	・不登校未然防止 ・地域貢献意識の向上	・SSRの活用、相談体制の充実、小中連携の充実 ・生徒指導の三機能を生かした指導と生徒会活動の活性化(自治能力の育成) ・校則の見直し ・自主参加による地域ボランティア活動の充実	①不登校等児童生徒支援会議の計画的実施 ②生徒指導に係る評価アンケートを全学年で実施する。 ③学校行事への生徒満足度。 ④1回以上と回答する生徒50%以上	①週1回以上80%以上 ②肯定的評価80%以上 ③肯定的回答90%以上 ④1回以上と回答する生徒50%以上	①100% ②89% ③98% ④59%	①100% ②93% ③98% ④51%	①100% ②100% ③100% ④100%	①A ②A ③A ④A	①「自分にはよいところがあります」の質問に対する肯定的回答が93%だった。 ②生徒と話し合いをしながら生徒指導規程の見直しを行うことができた。 ③体育大会などの学校行事の運営に関して生徒が主体的に取り組むことで、98%の生徒が充実感を得ることができた。 ④ボランティア部を中心として、ボランティア手帳を活用しながら半数以上の生徒が参加している。しかし、ボランティア手帳を活用している生徒は39%だった。	①学級活動や学校行事等で活躍できる場を設け、自己有用感・自己肯定感を高める取り組みを行う。 ②今後も定期的な生徒指導規程の見直しを行う。 ③学校行事を通して、リーダーシップや自己肯定感が高まるように役割を持たせ、やり切ることができるよう支援を行う。 ④ボランティア部を中心に学校内に呼びかけを行う。ボランティア手帳の活用も協議する。	○			○SSRの活用さらなる充実を期待します。 ○自己肯定感を高めるには自信を持たせるための取組が大切です。 ○ボランティア活動の充実を期待します。 ○地域とのつながりが素晴らしいです。
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	・新体力テストの分析による重点課題の克服 ・食育の推進	・9カ年を見通した体力づくりのカリキュラムに基づく体育科授業の工夫改善 ・部活動の練習方法の工夫(個人目標・チーム目標による生徒満足度の向上)	①「体力・運動能力調査」で全国平均以上の種目の割合	①50%以上	①100% ②89% ③98% ④59%	①37.5% ②93% ③98% ④51%	①75% ②100% ③100% ④100%	①C	①男女で16種目中6種目で全国平均値を上回ることができた。	①年度当初に実施をし、結果から保健体育の授業において、課題を継続的に改善できるように取り組んでいく。	○			○個人差が大きいため、改善を続けるだけで達成にこだわらなくてもよいと思う。 ○年度の基準を固定されても良いのでは。
			「金のルール」「食育」「久井中ノート」による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食に関する関心の向上)	①生活アンケートで、「自分の食事について、栄養バランスなどを意識して食事をしている」に対して、肯定的割合	①80%以上	①91% ②91%	①100%	①A	①保健委員により、給食ニュースを毎日読んで啓発している。クロームブックを活用して家庭科の授業やお弁当の日の取り組みを行っている。また、2年生は食育推進委員をお招きし、「自分で作るお弁当のおかず」について調理実習を行った。保健室入室時には、生活習慣について個別指導を行っている。	①保健や家庭科の授業での意識づけは継続して行っていく、講師を招いてのお弁当の日の実施を来年度も予定している。	○			・良い取組をしていると思う。 ・お弁当の日のさらなる充実を期待します。	
信頼される学校	開かれた学校づくりと教職員の資質向上	小中連携教育の成果が保護者・地域に伝わるための情報発信	・各たよりの発行 ・すぐへの積極的活用 ・小中高連携	①各たよりの発行(月1回以上) ②小中高の交流回数(年3回以上) ③保護者の学校教育満足度	①100% ②100% ③80%	①100% ②100% ③87%	①100% ②100% ③90.3%	①100% ②100% ③100%	①A ②A ③A	①学校だよりは毎月1回発行できた。 ②小中連携校として、毎週水曜日に支援会議等でSSRの生徒や気にかかる児童生徒の交流を小中合同で開催できた。また、卒業生の連携や、入試に関する小中高連携も実施できた。 ③保護者の学校教育満足度が向上した。	①学校だよりは内容の充実を行う。 ②小中高の連携を積極的に実施し、中1ギャップの解消や入試関係について理解を深める。また、卒業生も含め、児童生徒理解に努める。 ③生徒・保護者・地域の学校への理解を深められるよう、継続した情報発信を行う。	○			○情報・課題・目標の共有のために、継続した取組をよろしくお願ひします。 ○学校だよりが充実してきています。 ○職員の机上がとても整理されている。
			・服務研修の充実(不祥事ゼロ) ・主任主事を中心とする組織的な学校運営	①服務研修(接遇研修を含む。)毎月1回以上 ②小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	①100% ②100%	①100% ②100%	①100% ②100%	①100% ②100%	①A ②A	①服務研修を月1回以上行うことができた。また、臨時不祥事防止研修も確実に実施できた。 ②小中合同の学校経営会議を月1回開催し、小中連携校として研究大会等の研修内容の打ち合わせや各行事の実施案の検討等を重ねることで、スムーズな学校運営をすることができた。	①服務研修の内容を充実させ、教職員も一人一人が「自分事として捉える」姿勢で研修に臨む。また、定期的に不祥事チェックリストの実施をする等、不祥事防止の意識を高める。また、月1回の整理整頓日の徹底を図る。	○			○服務研修をさらに充実させて下さい。
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり 教育の質の向上を図るための環境づくり	「指針」に基づいた学校の取組を推進	・上限目安時間の管理(45時間/月) ・週1回の定時退校日の徹底 ・組織的・計画的な学校運営による効率化	①月の時間外在校等時間を45時間以内	①100%	①63% ②68%	①68%	①C	教職員16名の4月から1月末までの在校時間45時間以内の割合が68%であった。昨年度末が50%であったので、時間外勤務が減少していることが成果である。しかし、目標値100%に対しての評価としてはCであった。	・部活動指導体制の見直しと、互いの勤務時間を意識した声かけを行い、限られた時間の中で業務をおこなう意識を高める。 ・準衛生委員会を実施し、教職員の時間外勤務時間と、健康状態についての現状把握をおこなひ、今後の働き方を考える。	○			○中学校は、部活動との両立が課題ですね。 ○お疲れ様です。	

【j: 自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I: 学校関係者評価 評価】  
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。  
ハ: 分からない。